

【海外拠点】山口銀行釜山支店、山口銀行青島支店、山口銀行大連支店、山口銀行香港駐在員事務所
【現地駐在】TTB銀行(タイ・バンコク)、日本政策金融公庫バンコク駐在員事務所(タイ・バンコク)
HD銀行(ベトナム・ホーチミン)、明倫国際法律事務所ホーチミンオフィス(ベトナム・ホーチミン)



【香港駐在員事務所】

香港における日本食事情について

1. はじめに

香港人は食への関心が高く、食に対してお金や時間を惜しまないと言われています。

例えば、お気に入りの飲食店で食事をしたい場合、行列ができていてもきちんと順番を守り、並んでいます。日本ではよく見かける光景ですが、日本人以外は行列に並ぶことが好きではないと思っていましたので、私が香港で初めて見た時は大変驚きました。中にはルールを守らず行列に割り込んでくる人もいますが、そうした時は順番を守るように声をかけたりしています。マナーの良さは日本人に似ていると感じました。

さて、香港人の旅行先として人気の日本ですが、諸外国と比べてリピーターが多い点が

特徴です。治安が良く、質の高いおもてなしも理由の一つですが、やはり日本食を楽しみたいという人が多いようです。

残念ながら、この2年間、訪日旅行ができない状況が続いていることから、最近では香港にいながら日本気分を味わいたいというニーズが高まっており、ある日本料理店では3か月先まで予約が埋まっている状況とのことです。

今回は香港における日本食事情についてご紹介いたします。



行列に並ぶ人々（筆者撮影）

2. 日本食が好まれる理由

香港では、日本の食材は品質管理がしっかりしており、安心して食べられると高い評価を得ています。食材に対する安心感に加え、豊富な食材、素材の味を生かしたヘルシーで美味しい料理の多さ、見た目の美しさ等が主な理由になっています。

日本は南北に長く、行き先、季節の組み合わせで全国各地の四季折々のさまざまな旬の食材や郷土料理を楽しむことができるので、訪日の都度、新たな発見があります。そして、

また次の機会にまだ行ったことのない新しい行き先を探して行ってみたいという好奇心が生まれ、それがリピーターの多さに繋がっています。

3. 日本料理店の推移

香港の日本料理店は2001年の600店から2020年には1,330店に増加しています。新型コロナウイルスの影響もあり、2019年から1年間で70店減少しましたが、それでもこの20年間で730店増えており、飲食店全体に占める比率も2001年の5.3%から2020年は7.9%と2.6%上昇しています。

以前から人気の寿司、ラーメンの他、最近では、和牛、牡蠣、鶏卵を使った料理を提供する店が増えており、リーズナブルな店から高級店まで利用シーンに合わせてお店を選ぶことができます。また、菓子やスイーツも根強い人気があります。

香港における日本料理店の推移

	日本料理店	飲食店合計	比率		日本料理店	飲食店合計	比率
2001年	600店	11,350店	5.3%	2011年	1,080店	15,760店	6.9%
2002年	590店	11,590店	5.1%	2012年	1,160店	15,840店	7.3%
2003年	570店	11,190店	5.1%	2013年	1,230店	16,040店	7.7%
2004年	650店	11,550店	5.6%	2014年	1,270店	16,520店	7.7%
2005年	700店	11,930店	5.9%	2015年	1,290店	16,620店	7.8%
2006年	760店	12,410店	6.1%	2016年	1,280店	16,560店	7.7%
2007年	840店	12,830店	6.5%	2017年	1,310店	16,760店	7.8%
2008年	760店	12,740店	6.0%	2018年	1,360店	17,750店	7.7%
2009年	820店	13,250店	6.2%	2019年	1,400店	18,110店	7.7%
2010年	910店	14,380店	6.3%	2020年	1,330店	16,810店	7.9%

出典：香港政府統計局

4. 日本企業の進出事例

日本企業の進出事例として、2019年8月に回転寿司チェーン「スシロー」が初進出しました。香港でたちまち人気となり、現在12店舗に増えていますが、それでも休日には長蛇の列ができ、待ち時間が2時間を超えることもあります。昨年9月には広東省広州市に中国本土1号店がオープンし、現在同市内に3店舗展開していますが、更に新規出店を進め、今後3年程度で中国本土の店舗数を40以上に増やす計画です。

総合ディスカウントストア「ドン・キホーテ」もほぼ同時期の2019年7月に初進出し、現在9店舗展開していますが、こちらも多くの利用客で賑わっており、店舗数を増やしていく計画です。

また、進出事例ではありませんが、「おむすびの食文化を世界中に広げたい」ということで日本人が2010年に創業した百農社国際有限公司は、地下鉄駅等を中心におむすび販売店「華御結（はなむすび）」を100店舗以上展開しています。今年1月には新ブランド「OMUSUBI」を立ち上げ、1号店がオープンしました。今後は中国本土やアジア各国への

進出を予定しています。



スシローで順番を待つ人々（筆者撮影）



スシローにおける商品の一例（筆者撮影）



ドン・キホーテの店舗（筆者撮影）



OMUSUBIの店舗（筆者撮影）

5. おわりに

これまで、香港の一般家庭では外食やテイクアウトが中心であり、自宅であまり料理をする習慣がありませんでした。

しかしながら、新型コロナウイルスの影響を受け、最近ではスーパーマーケットで食材を購入し、自宅で料理をする人が増えています。特に時間をかけず簡単に作れるメニューが人気で、日本食品の輸入バイヤーの方にお聞きしたところ、「最近では冷凍うどんが売れている」と話されていました。

今後、食生活の変化に伴い、家庭における日本食のニーズがより高まるのではないかと感じています。例えば、常温・冷凍問わず賞味期限が長く、電子レンジで温めるだけ、あるいは湯煎するだけで手軽に食べられる商品は重宝されそうです。

ここ最近、日本の外食企業が香港を足がかりに中国本土へ進出している事例が出てきていますので、今後も香港の食品市場は注目を浴びそうです。

山口フィナンシャルグループでは海外展開を検討されているお客様のサポートを行ってまいります。香港への販路開拓や進出を検討されているお客様がいらっしゃいましたら、お気軽に各営業店または山口フィナンシャルグループ海外戦略部までお問い合わせ下さい。

（山口銀行香港駐在員事務所 山根 元博）

【参考文献】

- ・香港政府統計局
香港標準行業分類 2.0 版
- ・日本経済新聞
国際・アジア Biz (2022 年 1 月 18 日朝刊)
- ・時事速報香港版
香港百農社、新ブランド「OMUSUBI」開業＝世界 1 万店舗を目標 (2022 年 1 月 21 日)
- ・The Daily NNA 香港&華南版
ドンドンドンキ、淘大商場に 9 号店 (2022 年 1 月 24 日)
- ・The Daily NNA 香港&華南版
スシロー中国 3 号店、広州でドミナント展開 (2022 年 1 月 25 日)